

# 琉球大学学術リポジトリ

## ラオス国サワナケート県におけるアルテミシニン併用療法に対する服薬遵守および医療従事者の認識と服薬指導

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学 公開日: 2019-03-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Takahashi, Emiri, 高田恵美利 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/44045">http://hdl.handle.net/20.500.12000/44045</a>

2019年 2月 18日

琉球大学大学院

保健学研究科後期課程委員会 殿

論文審査委員

主査 氏名 金城 貴夫

副査 氏名 大嶺 ふじ子

副査 氏名 中尾 浩史



### 学位（博士）論文審査及び最終試験の終了報告書

学位（博士）の申請に対し、学位論文の審査及び最終試験を終了したので、下記のとおり報告します。

記

申請者	専攻名 保健学 氏名 高橋 恵美利 学籍番号 [REDACTED]
指導教員名	小林 潤
成績評価	学位論文 (合格) 不合格 最終試験 (合格) 不合格
論文題目	Patients' adherence to artemisinin-based combination therapy and healthcare workers' perception and practice in Savannakhet province, Lao PDR
審査要旨（2,000字以内） マラリアの有病率や死亡率は近年著しく減少したが、薬剤耐性マラリアの出現は地球規模の問題となっている。特に熱帯熱マラリアに対してアルテミシニン配合剤が第一選択として処方されるが、アルテミシニン耐性熱帯熱マラリアは東南アジア全域に広がっており、同地域の喫緊の健康問題となっている。アルテミシニンは服用後2時間で血中濃度がピークに達しマラリア原虫を駆除するため、臨床症状が早期に改善する。しかし例え服薬により体調が改善しても処方された分量を全て服用しなければ耐性マラリアを誘導する事が知られている。アルテミシニン配合剤耐性熱帯熱マラリアの東南アジアでの拡大は不十分な服薬が主要な原因と考えられており、これを阻止するためには医療従事者の服薬指導と患者の服薬遵守が重要である。ラオス国はマラリアの発生が多い国の一つであるが、同国のマラリア患者のアルテミシニン配合剤の服薬状況や医療従事者の服薬指導に関する研究は殆ど無いため実情は明らかではない。そこで本研究はまずラオス国サワナケート県フ	

イン、ゼボン及びノンの3地域におけるアルテミシニン配合剤の服薬遵守状況について調査し、さらに医療従事者の服薬指導の方法や認識について調査を行った。上記サワナケート県の3地域はマラリア浸淫地であるだけでなく、ラオスの共通語であるラオ語を話せないマンコン族が居住しており、同地域の医療従事者の殆どがラオスの主要民族であるラオ族であるのとは対照的である。研究方法は同地域のマラリア患者の服薬状況についての前向き観察研究及び、医療従事者から見た患者の服薬に関する認識と服薬指導状況についての記述研究の両面から解析を行った。アルテミシニン配合剤の服薬状況の調査では、同地域の服薬遵守率は94.4%（54名中51名）と非常に高いレベルを示していた。服薬遵守出来なかった3名は体調改善を理由に内服を中止していた事が明らかになった。医療従事者の調査からは、服薬遵守出来ない理由として患者との言語の相違に起因するコミュニケーション不足が挙げられた。一方で、殆どの医療従事者は患者に服薬の方法や服薬遵守の重要性を説明していたが、約30%の医療従事者は患者の服薬に対する理解度を頻繁に確認していない状況も明らかになった。さらに約70%の医療従事者は服薬遵守が出来ていないマラリア患者について見聞きしたことがあり、前述の患者調査による服薬遵守率は実際よりも高くなっている可能性を浮き彫りにした。本研究は数字には現れていないラオスの服薬状況の実際に迫っており、申請者の丁寧な調査もさる事ながら、本研究の持つ臨床的な重要性は強調しすぎる事は無い。本研究により、ラオスにおける服薬状況を改善しアルテミシニン耐性熱帯熱マラリアの感染拡大を防ぐためには、患者と医療従事者の間にある言葉の壁を乗り越え十分なコミュニケーションをとる必要性が示された。特に、医療従事者が服薬遵守の重要性を患者に伝えると共に、患者の理解度を確認し十分な説明を行う事が薬剤耐性マラリア拡大を阻止するために必要である事が明らかとなった。

本研究は薬剤耐性マラリアの蔓延する地域に赴き、現地で地道にデータを集め、服薬状況を明らかにしただけではなく、医療従事者の患者指導への状況と認識にも踏み込んだものとなっている。従って本研究の意義はラオスにおける抗マラリア薬剤の服薬状況とその問題点を明らかにしただけにはとどまらない。本研究はラオス住民、特に医療従事者への薬剤耐性に関する啓発や教育に寄与するだけでなく、感染対策や薬剤適正使用の基盤となるデータを示している。地球規模の医療問題に取り組んだ本研究は、本学保健学研究科が掲げる国際協力による医療問題の解決を図る研究として相応しいと判断される。なお、本学位論文は査読制度のある学術雑誌(Tropical Medicine and Health)へ掲載された。

審査を通じて、研究の企画・実施・考察、さらに本研究の今後の展開に関して申請者は的確に把握している事が示された。質疑応答では殆どの質問に対して申請者の考察を交えながら丁寧に回答していた。一部の質問は申請者にとって想定外の質問であったようだが、取り繕う事なく真摯に回答していた。申請者は今後の研究の展開についても明確なビジョンを示しており、本研究の発展が期待された。従って本学位論文が保健学博士後期課程の学位論文としてふさわしく、申請者は保健学博士としての学識を十分有していると判断した。